

全国ネット通信



Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER



Index ※●内の数字は ページを表しています	● 1 新年のご挨拶 (高田理事長)	● 3 脱炭素チャレンジカップ	● 5 環境大臣表彰 地域の担い手が受賞
	● 2 年頭のご挨拶 (山口環境大臣)	● 4 地球温暖化ハンドブック作成	● 6 スタッフ紹介
	● 3 再エネ 100 宣言 RE Action 参画	● 5 うちエコ診断WEBサービス スタート	● 6 ぶんちゃんのみひとりごと

新年のご挨拶 ～イカ釣り漁と気候変動～

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田 研
(都留文科大学 特任教授)

昨年10月末に長崎県対馬に仕事で訪れた際、厳原港には20トンクラスのイカ釣り漁船が3艘繫留されていた。漁師さんに話を聞くと島原の漁民で、一年の大半をこの厳原に拠点を置きながら北上するイカを追って生活しているという。

この時期は寒イカ漁(スルメイカ)に船団を組んで北海道沖まで出漁しているはずであるが、極端な不漁と燃料費の高騰を受け、今年はお出漁しなかった。(冬に捕獲するイカの資源量が1996年に103万9千トンだったのが2020年に16万6千トンまで減少。2020.水産研究・教育機関発表)原因は海温の変化と隣国の大量捕獲が原因ではないかと言う。都会で暮らす者にとっては見えにくい情報であるが、気候変動の影響は水産業にとって、死活問題となっている。

私は全国センターとしての啓発事業のあり方、気候変動の教育の内容と手法に今年は取り組んでいきたい。





年頭のご挨拶 環境大臣 (兼内閣府原子力防災担当大臣) 山口 壯

明けましておめでとうございます。新たな年を迎え、環境行政に対する国民の皆様の御期待に応えられるよう決意を新たにし、御挨拶を申し上げます。

昨年10～11月に、岸田総理や私が参加した英国・グラスゴーの気候変動COP26は、歴史的なCOPと評価して良いと思います。特に、市場メカニズムの実施ルールについては、我が国が行った提案がベースとなり合意が成立しました。また、途上国を支援する資金、各国の削減努力の透明性に関する議論にも、大きく貢献しました。我が国の提案は、環境省などが長きにわたって蓄えてきた経験がベースとなって実現できたものです。今回のCOPの結果は、世界全体が、1.5度目標の達成に向け、脱炭素化をより本格的に実行する段階に入ったことを意味します。いよいよ世界全体での巨大な脱炭素市場が誕生し、カーボンニュートラルに向けた競争が加速化することになります。

我が国は、COP26の開催より前に、2050年までのカーボンニュートラル及び2030年度温室効果ガス46%削減の実現を目指し、50%の高みに向けた挑戦を続けることを表明していました。2050年カーボンニュートラルの実現に向け、2030年までが「勝負の10年」となります。そのために、10月に閣議決定した地球温暖化対策計画において行程を示したところです。

今年、「地域脱炭素元年」として、脱炭素社会への移行に全力を尽くします。パリ協定の実施ルールが決まった今、残るは実践です。デジタルを含む脱炭素技術の更なるイノベーションを推進するとともに、再生可能エネルギーなどの地域資源を徹底活用したグリーン社会を実現することで、「科学技術立国」「地方活性化」に貢献したいと思います。具体的には、1月から、脱炭素先行地域の募集を始めます。先行地域の実現に向け、補正と当初予算案において、脱炭素地域づくり関係で、新たな地域脱炭素移行・再エネ推進交付金と新たな財政投融資の創設など、合計1000億円以上を重点配分しました。これは東日本大震災復興特別会計関係を除く、環境省の当初予算の約1/3の規模です。先行地域から、脱炭素ドミノを起こし、全国の脱炭素化を進めます。そのために、私、副大臣、政務官が率先して、地域脱炭素に向けた全国行脚をする決意です。

更に、CO₂削減や食品ロス・使い捨てプラスチック削減等をはじめとした環境配慮行動に対するポイント付与の仕組みづくりの創出への支援による、社会全体の行動変容を後押しします。カーボンプライシングについても、産業界の意見も良く聞きながら、引き続き検討を進めてまいります。

循環経済と分散型自然共生社会に向けた移行にも取り組みます。循環経済関連ビジネス市場規模80兆円以上、陸・海の30%の保全(30by30)に向けて集中的な取組を進めてまいります。

環境外交も強化します。COP26で合意したルールを踏まえ、二国間クレジット制度を活用して、世界の脱炭素市場に日本の優れたソリューションを展開してまいります。さらに、今年の生物多様性COP15や海洋プラスチックごみに対処する新たな国際的枠組みづくりにも、環境省が蓄えてきた知見を十分に活かして、主導的な役割を果たしてまいります。

また、環境省の不変の原点である公害健康被害の救済・補償や、軽石を含む海岸漂着物対策など、人の命と環境を守る取組を着実に進めてまいります。

今後も東日本大震災・原発事故からの復興・再生に向けては、今年度中に除去土壌等の中間貯蔵施設への搬入を概ね完了させるなど除染等の事業の着実な実施に加え、福島県内の除去土壌等の2045年までの県外最終処分に向けて、再生利用等に関する全国での理解醸成活動を更に展開するとともに、福島の復興を一層進めるため未来志向の取組を展開します。

原子力防災に関しては、地元住民の安全・安心にとって重要であり、その備えに「終わり」や「完璧」はありません。引き続き、関係自治体や関係省庁と緊密に連携して、各地域の原子力防災体制の更なる充実・強化に取り組んでまいります。

最後に、持続可能な社会は、様々な関係者のご理解とご協力無くしては実現できません。今年も関係者の皆様のますますのご健勝を祈念いたしますとともに、心を合わせて政策を進めてまいりたいと思います。

アールイー・アクション

再エネ 100 宣言 RE Action に 参画しました



2019年10月に誕生した「再エネ 100 宣言 RE Action(アールイー・アクション)」は、中小企業や自治体及使用電力の再生可能エネルギー100%化を宣言し、共に行動を示していくイニシアティブです。すべての参加団体は、遅くとも2050年までに使用電力の再生可能エネルギー100%化を宣言しています。

2021年11月に、本活動を主催している協議会メンバーに、当法人が参画いたしました。また、同月には宣言をした参加団体が200に到達しました。今後は、地域の地球温暖化防止活動推進センターとともに、中小企業等への再エネ100%の目標設定の働きかけをし、脱炭素へ加速化していきたいと思ひます。



エコプロ2021 ~持続可能な社会の実現に向けて~に出展しました

昨年はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から全面オンラインになった環境総合展示会「エコプロ」。2年ぶりに実開催で行われた今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、昨年12月8日～10日の3日間、東京ビックサイトにて開催されました。全国ネットはブースにおいて、IPCC第6次評価報告書からの最新情報、地域センターの温暖化防止活動の事例、また、身近な日常生活の中でできる脱炭素生活に向けた取り組み「ゼロカーボンアクション30」に関するクイズを通して、一歩踏み込んだ「身近にできる対策」を考える機会を提供しました。

会期中の3日間でブースに訪れていただいた方々はおよそ1,000名。参加者は、3問の温暖化クイズにチャレンジ！ブース内に展示されたパネルを中心にヒントを探し、回答していました。回答してくださった方にはクイズの答えと地球温暖化防止ハンドブックをお渡ししました。ブースに留まり、展示パネルをじっくり見られ



ている方もおられ、幅広い年齢層に、高い関心を寄せていただきました。

また、うちエコ診断では、今年度よりスタートしたWEBサービスを体験できるコーナーを設置。個々の生活の中で自分にできることを知るきっかけになったという声も寄せられました。

全国ネットは、市民の地球温暖化防止への行動変容へのきっかけはもちろん、各地で活躍する推進員や指導者の方々の一助となり、地域の温暖化防止活動がより一層活気あるものになるお手伝いを今後も続けていきたいと思えます。クイズについては、下記ページからも挑戦することができますので、ぜひトライしてみてください。



おんだんか・三択クイズは・・・ https://www.jccca.org/game/ondanka_quiz/



脱炭素チャレンジカップ

2022年2月15日(火)「脱炭素チャレンジカップ2022」 オンライン開催！来場・WEB投票募集中！！

「脱炭素チャレンジカップ2022」では、地域で日々取り組まれている様々な団体による脱炭素社会づくり活動や地球温暖化防止の取組を募集し、厳選なる書類審査を経て、ファイナリストが決定しました。2022年2月15日は、全国から選ばれたファイナリスト28団体によるプレゼンテーションで成果を競い合い、環境大臣賞、文部科学大臣賞と企業/団体賞等を決定いたします。地域の脱炭素化へのモデルとなる知恵や取組みを知るまたとない機会となります。

今回は会場とオンラインでのハイブリット開催となりますので、全国どこからでもご参加いただけます！皆様のご視聴を心よりお待ちしております。



お問合せ先

【脱炭素チャレンジカップ事務局】
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
E-mail: zccc@zenkoku-net.org
Tel: 03-6273-7785

第12回 Zero Carbon Challenge Cup 2022
脱炭素チャレンジカップ 2022
入場無料 (オンライン同時開催)
来場者募集

全国から選ばれた脱炭素社会の構築につながる活動に取り組むファイナリストが大集結！
その成果を4分間のオンラインステージで披露していただき、各賞を決定します。
グランプリの栄誉に輝くのはどの団体か？全国の知恵と技をご覧ください。

開催日 2022年2月15日(火)
会場 伊藤園ホール 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学キャンパス内

プログラム(予定) ● 10:00~16:45
10:00 ~ 10:12 開会/オープニング
10:12 ~ 13:15 ファイナリスト28団体によるプレゼンテーション発表
13:15 ~ 13:45 休憩時間
13:45 ~ 14:15 脱炭素社会に向け、地域の課題について 講師:東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 高村 ゆかり 氏
14:15 ~ 14:30 アニメーション発表からの講演
14:30 ~ 15:45 パネルディスカッション
15:45 ~ 16:45 表彰式(審査結果発表)/閉会式

「脱炭素社会に向け、地域の課題について」
2050年カーボンニュートラルの実現に向け、地域での課題や取組についてご講演をいただきます。
【講演】13:45~14:15
高村 ゆかり さん
(東京大学未来ビジョン研究センター教授)
専門は環境法学・環境法。京都大学法学部卒業。名古屋大学大学院教授、東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IPRCS)教授などを経て現職。国際環境条約に関する法的問題、気候変動とエネルギーに関する法政策などを主な研究テーマとする。編著書に「気候変動政策のダイナミクス」など。

来場・WEB投票の事前登録は・・・ <https://www.zenkoku-net.org/datsutanso>



うちエコ診断WEBサービスが公開されました！

「うちエコ診断」は、家庭の地球温暖化対策の専門家である「うちエコ診断士」が各家庭の光熱費や二酸化炭素排出量等を専用のソフトで診断、ご家庭ごとのライフスタイルに合わせた地球温暖化防止対策のアドバイスをご提案することで、省エネと光熱費削減に繋がる具体的な行動変容を進めることができるサービスです。これまで、うちエコ診断を受診した家庭では、年間約6万円の節約効果を得ることが出来ました。

このたび、どなたでもインターネット上で簡単に自己診断ができる「うちエコ診断WEBサービス」の運用を開始いたしました。インターネットが利用可能な環境であれば、パソコンの他、スマートフォンやタブレット端末で利用することができます。家庭からの二酸化炭素排出量や、効果的な地球温暖化防止対策のアドバイスが最短5分程度で診断結果として表示されます。

住まいやライフスタイルなどから、光熱費で減らせるところを視覚的に見ることができ、「どこから」「どのくらい」二酸化炭素が排出されているのかもわかります。また、住まいのお悩みに合わせた診断や、省エネ家電に買い替えた場合のコストのシミュレーションなどを行うことも可能です。

さらに、WEBサービスからうちエコ診断士による対面診断の申し込みをすることができます。より詳しく知りたい方は対面での診断も、ぜひご検討ください。

うちエコ診断WEBサービス(試行版)は、下記、家庭エコ診断制度ポータルサイトよりアクセスできます。

家庭エコ診断制度ポータルサイト・・・

<https://www.uchieco-shindan.jp/>



令和3年度 気候変動アクション環境大臣表彰 地域の担い手が受賞！

環境省では、気候変動の緩和及び適応に関し顕著な功績のあった個人・団体に対し、その功績をたたえるため、「気候変動アクション環境大臣表彰」を行っています。

昨年度より環境大臣表彰の内容を「地球温暖化防止」から「気候変動アクション」に変更されました。2021年12月8日に東京ビックサイトにて表彰式が開催され、今年度も「地域の担い手」である地域センター・推進員の方が受賞されました。

受賞に際してのメッセージをいただきましたのでご紹介いたします！



一般社団法人 秋田地球環境会議 (秋田市地球温暖化防止活動推進センター指定法人)

受賞活動名: 「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト

輝かしい賞をいただき大変光栄です。次世代の意見が政策に反映されることが重要と考え、気候変動を争点に位置付けることができる国民が増えることを目指し、本プロジェクトを推進しています。高校生の豊かな発想で、気候変動対策をキーワードに、地域全体が元気になるためのマニフェストをこれからも沢山描けるよう引き続き活動して参ります。責任を持って社会を創っていく思考形成と、将来的には地域イノベーションの核となる、あるいは政策決定等に関わる人材を育成することが目標です。



藤当 満さん (北海道地球温暖化防止活動推進員)

受賞活動名: 地域FM局を通じた地球温暖化防止啓発活動

このたび、皆様方をはじめとして多くの方々のご支援いただき受賞することができました。2005年から現在まで推進員活動を展開中です。地域に根差した活動を模索してまいりましたところ地域FM局が2009年開局。懇願して2010年7月以来毎週一回放送して休むことなく放送、現在は12年目！580回を超えて放送中です。継続は力なり！番組名「得するエコもったないが地球を救う〜」カーボンニュートラル実現まで放送したい。1,000回、2,000回に挑戦。インターネットラジオでも視聴可能です。



ばんちゃんのひとりごと 生物多様性ってなあに？

動物大好き！ばんちゃんファンの皆様！お久しぶりです！今回は、今年の干支の寅（トラ）についてです。



© Tomo Akiyama



© Tomo Akiyama

トラってどんな動物？

分類：食肉目 トラ科
サイズ：頭胴長 140cm～280cm
体重：体重 90kg～306kg（亜種による個体差あり）
※メスよりもオスの方が大型になります。
生息域が北部の方が大型で、南部に向かって連れて小型になる傾向があります。

寿命：約15年

暮らし：母親と子どもは共に生活をしますが、基本的には単独生活を送る動物と考えられています。

繁殖：3～4歳で繁殖可能。一回の出産で、平均3～4頭を出産

生息地：熱帯雨林、マングローブ、針葉樹林（タイガ）など

食物：イノシシ、シカ、スイギュウなど

絶滅危惧種（EN）：20世紀の初め10万頭が生息していたといわれていますが、現在の生息数は、5,000～7,000頭前後と推定されています。

亜種：9亜種（ベンガルトラ、シベリアトラ、アモイトラ、インドシナトラ、マレートラ、スマトラトラ、カスピトラ、パルトラ、ジャワトラ）

ホワイトタイガー：所説ありますが、ベンガルトラの白変種であることが有力です。インドや中国では古くより、「神の使い」や「白虎」として、神と信じ敬ってきました。現在では飼育下でしか目にする事ができず、日本国内に約35頭、世界でも約250頭が飼育されているだけです。

トラは、都市開発や農地開発、森林伐採・植林などによる生息地の破壊により、生息数は減少しています。さらに、大型の動物を狙ったスポーツ・ハンティングや毛皮用としての乱獲、人間や家畜を襲う害獣としての駆除などによって、減少に拍車がかかっています。近年では、薬の材料のための密猟が横行しており、依然として絶滅に瀕しています。

生態系ピラミッドの上位に存在するトラが絶滅してしまうと、生態系が崩れ、シカやイノシシの個体数が増えすぎ、彼らの食料である植物が減少し、同じ植物を食料やすみかにしていた昆虫類や小動物にも影響が及ぶことが危惧されます。自然環境の破壊につながり、人間も危機にさらされてしまいます。様々な人間活動のために多くの種が地球上から失われるとしたら、それは、人間の生存をあらゆるだけでなく、地球上で生きるすべての生き物の持続可能性に影響を及ぼすことになってしまいます。

今に生きる私たちは、もうこれ以上、生き物の種が絶滅していかないように、人間とトラが共存できる世界を目指していくことが大切です。

企画広報・事業グループ 高橋 文彦

スタッフ紹介

家庭エコ診断グループ

Tokihiko Saeki 佐伯 朗彦

最近では料理にハマっています。毎日のお弁当を作って、しっかり栄養管理をしていきたいと思います。



2021年5月に入社し、現在はおうちエコ診断士資格試験の運営に携わっています。

社会に出てからは、住宅

産業に従事し、木材などの建築部材の販売から、新築住宅そのものの販売まで経験して参りました。省エネ住宅である自宅は、私が設計にも関わって建て、2年近く住んでいます。

冬場は24時間連続で床暖房を使用していますが、断熱性能にこだわったため、光熱費は賃貸の頃よりも安くなっています。また、ネコを2匹飼っていますが、床暖房のおかげか、私はもちろん、最近は家族もネコもすっかり病気をしなくなりました！

日本の住宅の省エネ性能レベルは先進国と比較すると、レベルがまだ至っておらず、そのことを知る方も多くはありません。ですが、脱炭素社会の実現に向けては、住宅の省エネ性能の向上は不可欠と考えています。また、省エネ性能の向上は生活の質の向上にもつながるため、今後も温暖化防止のための活動を通して、



多くの方に住宅の省エネ性能の重要さをお伝えしていきたいと考えております。

◀ネコも快適！省エネ住宅



▲ 将来世代の願い

エコアナウンサー 櫻田彩子の

ミニコラム

カーボンニュートラル（脱炭素）宣言で企業、市民、学校、皆が持続可能な地球のために動きやすくなりましたが、この壁を越えたい！と思うこともあるのではないのでしょうか。

私は昨年、自分の住んでいる文京区のリサイクル清掃審議会に委員として参加しています。文京区では容器包装プラスチックは費用対効果が悪いため焼却処分されています。感じたのは、皆で脱炭素に向かうインセンティブを創り出す必要がある、ということです。4月施行予定のプラスチックに係る資源循環促進法に期待しつつも、どうしたら皆が笑顔になる方向に進むことができるのか…。

困ったときは…脱炭素チャレンジカップ！です。全国から脱炭素社会に向け考え行動する心強い仲間が集結します。ファイナリストの皆さんがどうやって道を開いたのか、今年も司会として皆さんを応援し、皆さんの起してきた変革やアイデアに学ばせて頂きます！

櫻田彩子 プロフィール Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「脱炭素チャレンジカップ」の司会など、全国ネット賛助会員。



表紙の写真：エコプロ2021

2年ぶりの実開催となったエコプロ。予想外にたくさんの中小学生や企業、団体の方がブースに来訪くださいました。直にお話できること、意見交換できることって、やっぱりいいなあと思ったひとときでした。

編集後記

2022年、新しい年が始まりました。withコロナの生活もすっかり定着し、マスクが顔の一部になりそうになっています。今年は寅年。本紙面の「ばんちゃんのひとりごと」はトラをリクエストしたところ、担当の「文ちゃん」は快く執筆してくださいました。そして隣のスタッフ紹介では佐伯さんのネコ！ネコ科好きな私としてはたまらない紙面になりました。虎の勢いを借りて!?貪欲に駆け抜ける年にできたらいいなと思います。

(企画広報・事業グループ 井原 妙)

地球温暖化防止全国ネット通信 第38号 2022年1月号

【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット（JNCCA）
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-9-12
九段ニッパビル7階

TEL：03-6273-7785 FAX：03-3263-1010

https://www.zenkoku-net.org/



一般社団法人地球温暖化防止
全国ネットの活動をサポート
してください！

年会費：個人会員1口 5,000円
団体会員1口 20,000円

